

1 1月5～6日 山口県出張報告

宇田津 真理子

1 1月5日 山口県美祢市立美東中学校

美祢市は人口約2万5千人。県立、私立高校が各1校あり、中学校7校、小学校14校がある。今回視察に行った美東中学校は4つの小学校から生徒が集まり、全校生徒は105人の小規模校。視察の目的は地域拡大大学校運営協議会がうまく機能していることを勉強することである。

地域拡大大学校運営協議会を親しみやすい「みとうこぶっちゃんネット」とネーミングし、各学校からキャラクターを生み出し、協議会にいかしていた。学校、家庭、地域の連携はどここの学校でも取り組んでいるが、美東中の場合は、各小学校間の連携、小中の連携、保育園との連携、地域との連携がそれぞれしっかりとできていて、それぞれの学校の運営協議会が美東の園長、校長会議ともつながり、共通理解がなされていること、認識が高いことが際立っており、感心した。小中共通の重点取組があり、それを地域の人が理解し、美東地域全体でめざす子ども像を熟議する場がある。それが当たり前のように今、機能していることが分かった。素晴らしいと思ったのは、地域の行事、学校の行事が合うように地域連携カリキュラム一覧表を作成し、地域の行事に生徒が参加しやすいように調整されていることである。

地域とのふれあいが楽しいと感じる生徒、地域の人との挨拶がすすんでできるようになった生徒、自己肯定感が高まった生徒が増えてきたことが成果である。

1 1月6日 山口県山口市立白石中学校分教室

不登校生徒のための分教室を設置して4年目である。平成26年の段階で、①施設、②見込み生徒数、③学校、教育支援センターの協力体制等の観点から設置可能と判断された山口市立白石中学校、下関市立文洋中学校において、「分教室」を立ち上げ、不登校生徒の学力、進路の保障に係る取組をモデル的に開始した。

今回の訪問先では、前教育委員の春日先生がカウンセリングをし、白石中分教室の生徒、保護者、教員の良きアドバイザーとして活躍されていた。白石分教室は在籍が14名。常勤職員3名。本校からの教員派遣で運用している。開設当初は、組織の在り方、財源、人事配置など並々ならぬ努力を要したようだ。教職員の熱意と市教委の協力のおかげで今があり、在籍している生徒たちの元気な様子を見ることができた。様々な事情で不登校となったが、学力も伸び、人間関係もつながりができたことは、喜ばしいことだ。生徒たちの感想が素晴らしい。「仲間がいる。」「勉強がわかるようになった。」「先生と信頼関係になれた。」「自分の気持ちを言えた。」等々。本校のままであれば、不登校となり、高校進学もきびしい中、分教室が設置され、そこに通うことによって、その先の進路が決まっていくということが何より素晴らしいことであると考える。

課題もあるとのこと。一つ目は、進学に向けての学力向上である。教員の体制上、複式で授業を行っているが、学年別の授業が望ましい。しかも狭い教室であるため、隣の室の声が響き集中できないことがある。二つ目は、ほとんどの生徒の場合、家庭にも課題が多いことである。保護者との面談や話し合い、訪問などの時間を要するため、教師の負担が大きい。三つ目は、立ち上げが先行してしまい、運営するうえで、細かいことのルール作りができていないことである。

この白石中学校分教室は、生徒一人一人に高校進学への道筋、社会に出ていくための学力及び自立性を確立させる学校として位置付けられている。保護者や地域から理解されながら分教室で指導している先生方の熱意と行動力に感銘を受けた。